

【令和5年度北鹿島小学校 学校評価計画】

<p>1 前年度 評価結果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイプランの作成や授業研究を通して、全職員で授業改善に取り組むことができた。特に算数科においては、全校統一した学習過程や家庭での事前学習の徹底により北小の学習スタイルが定着しつつある。課題は、学力検査の結果に学年間の差が大きく見られることである。落ち込みが激しい学年に対して学校全体で取り組み、学校全体の学力向上を目指す必要がある。 ・望ましい生活習慣については、PTAとの連携しながら、学校と家庭との連携を強化する必要がある。 ・コロナ禍の中でも体験活動を工夫して実施することが概ねできた。地域の協力体制が整っていることが結果につながっている。運営協議会の場を大切に地域とともに育つ学校づくりを目指す。 ・時間外勤務の削減については、上限時間を決めて取り組んだおかげで、時間を意識した働き方が定着してきた。今後は、働き方改革に対して職員一人ひとりがアイデアを出し合いながら、実感を伴った働き方改革を推進したい。 ・特別支援教育についての理解について職員で共通理解をする必要がある。その上で、学校全体で支援を要する児童を含めた気になる子の手だてを講じていく必要がある。 		
<p>2 学校教育目標</p>	<p>「命 ひびき合い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ★児童1人ひとりが可能性を広げ、生き生きと自分のよさを発揮している姿 ★学び合いながら、互いの良さを認め、それぞれの感性をひびき合わせている姿 ★自尊感情を持ち、友だちのよいところに気づき、たたえる姿 		
<p>3 本年度の重点目標</p>	<p>「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「たくましい身心の育成」を柱に、地域との連携及び特別支援教育の充実を図る。</p>		
<p>4 重点取組内容・成果指標</p>			
<p>(1) 共通評価項目</p>			
<p>重点取組</p>			<p>具体的取組</p>
<p>評価項目</p>	<p>取組内容</p>	<p>成果指標 (数値目標)</p>	

●学力の向上	○「問題」「めあて」「自分の考え」「話し合い」「まとめ」「練習」「ふりかえり」という学習の流れを定着させる。 ○各授業時間に、「書く活動」をできるだけ取り入れる。	○記述式の無解答率を、県平均より下まわるようにする。 ○「自分の考えを相手に分かるように工夫して書くことができた」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上とする。 ○電子黒板やタブレット端末を用いた学習を、「分かる」と答える児童を90%以上とする。	・校内研究に積極的に取り組むとともに、メンタリングで、積極的に声をかけ合い、授業の見せ合いを年間2回以上行う。 ・担任のタブレット端末の授業での活用、家庭に持ち帰っての児童の学習に取り組む。
	○家庭学習と読書活動の充実	○学年で決まっている時間、家庭学習に取り組む児童の割合を80%以上とする。 ○年間読書数100冊以上達成児童を80%以上にする ○ノーテレビ・ノーゲームデー達成者を95%以上にする。	・3年生以上には、自学ノートに取り組みさせる。 ・月に1度「家読週間」を設定し、読書週間を根付かせる。 ・毎月、ノーテレビ・ノーゲームデーを3日間設定し、学校全体で常に95%以上達成を目指す。 ・学年に応じた選書指導を行う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○主権者教育の視点を取り入れた「命ひびき合い広め隊」の放送で、全学年の子どもたちが1回以上紹介される。 ○道徳の授業を週に1回確実に実施し、生き方や在り方について考え、新しい自分や、新しい考え方を発見していけるようにする。	・職員が目指す児童の具体的な姿を児童の中から見つけ、朝や帰りの時間にクラスの子どもたちへ紹介する。また、各クラスの紹介で留めず、放送や朝会の場でその姿を紹介し、学校全体へ広めていくことで自己肯定感を高めていく。 ・道徳の授業を保護者にも公開することで、家庭への啓発をする。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「生活アンケート」の実施で、学校生活が楽しい児童の割合を90%以上にする。	・年3回の生活アンケートやQUテストの実施および教育相談週間を年間2回設定し、実態把握をする。 ・気になる児童の観察を行う「1日観察日」を設定する。その後、全職員で共有する場を設ける。 ・スクールカウンセラーなど校外の講師を招いて校内の研修会を実施し、子どもの見取り方を学ぶ。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・子どもたちの他者を思いやる姿やさりげなく助け合う姿を見せた時すぐに褒めるような心がける。 ・帰りの会では、子どもたちが気持ちよく帰り、次の日元気よく登校できるように、担任はその日の良いことをできるだけたくさん伝えて帰すように心がける。 ・定期的に子どもたちが自分の夢や目標について考えさせる機会を設ける。

●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ●「安全に関する資質・能力の育成」	○早寝・早起きができる児童の割合を85%以上にする。 ○1日のテレビ・ゲーム等の視聴時間2時間以内の児童の割合を80%とする。 ○「健康に良い食事をしている」児童の割合を80%以上にする。 ○朝ごはんの喫食率を95%以上にする。 ○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・年2回、食育月間に合わせて、生活状況調査および食に関する意識調査を実施する。 ・児童への指導だけでなく、家庭への啓発を行い、学校と家庭が連携して望ましい生活習慣の定着に努める。 ・「北鹿島小安全マップ」を用いて、危険箇所等について児童と情報を共有する。 ・地域見守り一斉下校指導を年間3回行い、安全教育の推進を図る。
	○自主的体育活動の促進	○進んで運動しようとする児童の割合90%以上の継続を目指す。	・委員会による外遊びの推奨や県の「さがんキッズスポーツチャレンジ」への取組等で、全児童の体力向上のための支援を行う。 ・たてわり活動やマラソントイム、各種記録会(水泳、なわとび等)を充実させる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校時表を見直すことで放課後の時間を確保する。 ・本校独自で定時退勤日を設定するとともに19時には退勤するよう声かけを行う。 ・書類や資料の電子化を進め、共有フォルダや校内掲示板の活用を推進する。 ・使い勝手の良い教室や執務スペースの整備を行う。
	○計画的な年休取得の促進	○年間年休取得日数平均14日以上を目指す。	・長期休業中の会議・研修等の厳選及び校時表の工夫によりまとまった休暇がとりやすくするとともに年休取得の声掛けを適宜行う。 ・長期休業勤務計画提出時に年休取得が少ない職員へは個別に声をかける。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	
○地域連携	○社会に開かれた教育課程の実現及び地域連携の強化	○体験活動を通して、北鹿島の良さを感じ取ることができる児童90%を目指す。 ○体験活動で学んだことを全学年発信する。	・体験活動は、児童に計画を立てさせ、主体的に取り組ませる。 ・発信する場として「ふれあい集会」を設ける
○特別支援教育の充実	○全職員の意識と専門性の向上	○教育活動を進めていくにあたって、合理的な配慮を行っているという回答する職員を95%以上にする。 ○「学校は、児童一人ひとりの理解に努め、指導や支援を行っている」という問いに、肯定的な回答をする保護者85%を以上を目指す。	・合理的配慮を取り入れた環境づくりや授業づくりについて学ぶ研修会を行う。 ・児童のつまずきに応じた指導を工夫し、その手立てと効果について、通信等で保護者に発信していく。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育